

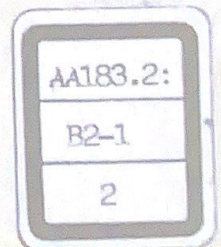
以画送

NO.2



AA183.2
B2
1

青山学院大学馬術部



新しい部員を迎えて

主 将 平 中 三 彦

今年も数多くの新入部員を迎えて心強い後援が出来たという喜びと同時に多数の下級生を近づけることの責任の重さをあらためて感じて居ります。

多少の差こそあれ毎年の例として「春に大勢の入部を見、夏休みを過ぎる頃半数以下に減する」という現象——この陶汰は大いに結構な現象であるが——これは入部して来る人々の馬術部に対する甘さ（学校の馬術部というものの性格を全然知らないこと）に起因している。表面突に華やかに映ずる部生活の内側は想像以上につらく厳しいものである。

新しい部員にまず次のコトを知ってもらわねばならない。即ち、馬術部員の仕事は唯「馬に乗る事」にはなく「馬を育てるコト、古い馬を作り上げるコト」である。これが大学馬術部の出発点です。即ち、君達は皆馬

既に名前を述べたのではない。生き物を主体にした団体生活に於いて、君達は幾多の障壁を前にし試験の場に立たされよう。（馬術部生活は決して楽しいだけのものではない。）苦境を乗り越える力を養い根生のある人間を作る場が運動部である。

柔弱者は運動部に不向きである。「僕の力、私の力で我等の部を立派にしよう」という意気と熱意を持つ者だけが馬術部に必要なのだ。今年

は馬術部員にとつて重大な試験が間近に待っている。馬術練習場の移動がそれだ。部員の活動条件が不利になるコトは明白であるが、この悪条件に打ち勝つ者は

部員各自の意志の力を合せて団結力だけである。馬術部の生活で、馬に乗り得る楽しみを除けば表面的に私益を利するものは何一つないかもしれないが、何者をも恐れぬ勇氣と何者にも負けない骨つばさ、辛抱強さだけは皆に共通して身につけてもらいたい。四年間の部生活を単なる遊びの場で過ぎず進んで自己を

鍛える試験の場としていたぎたい。部員は全て運動選手であつて馬術部は運動部である。部員は全て運動選手であつて欲しい。

☆☆☆☆☆☆

これからの馬術部に望むもの

菅 原 紀 美 枝

(昭和三十五年短大卒)

人生七十年(の予定)のうち、タツタ十ヶ月という期間きり体験しなかつた運動部の生活は、現在の私にとつて最も貴重なものであつた。

もし馬術部の活動を知らずばそのまゝ学生生活を了えて社会人になつていたら、自分にとつてどういふ悲劇が生まれていたらと思ふ位に、これは恐らく部員の方々が感じていた事であると思ふ。けれども、それかと言つて我が馬術部そのものの内容が殆んど完全に近いものであると思われぬ。もつとはつきり言えぬ大きな欠点があるということ。その欠点も又、私のみならず多くの人が心中秘かに憂へている事であると思ふのである。が、心を痛め、又は日誌の片隅に小さな主張を載せているだけでは解決しそうになく、何時かは誰かと言ひ出さねばならぬ事だと思つて来た。これから述べる事を言二才の嘘と一笑に附されず、どうぞ私の意図するところを御斟酌戴きたくお願い致します。

致します。

数年前までの馬術部は随分厳しいものであつたように私は聞いている。例えば、たろんでいる部員にベケツで水をかけて目覚ましにしたとかナントかいう調子のもので、又その反面、遊ぶ時には徹底的に遊んだンダソウナー、良い事だと思ふ。といつても別に水をかけて貰いたいわけではない。

そのような厳しさを部員各自が自分自身に対して持つことができたと思ふのだ。

ベケツの水をかぶつて頭を冷やした頃とは時代が違ふかもしれない。そういうペタル式ともいえるような訓練は不必要とする人も中には居よう。が、私はやり方を云々するつもりはない。唯、何物かに徹した一つの精神を馬術部の中に育てる事ができれば良いなと希望するのである。希望だけでなく必要だと思ふ。

時代が變つても變ることのないものがある筈だ。戦前が戦後になつたから、去年が今年になつたからといつて何もかもが移り交つていたのでは、そこには独自の性のあるものは生まれて来ないと思ふ。

青山の馬術部にはそれなりの一つの太骨があつて然るべきなのではないだろうか。馬術部のカラーとして、かもし出されて来るような家族的雰囲気も良いけれど、それよりももつと根強いものが欲しい。平直に言

つて「厳しさ」がこれからの馬術部に植えつけられて行くようであつて欲しいと思ふ。語弊があると思ふが、難しく辭釈しないで戴きたい。要するに、ゆるむ所でゆるんでも、しざる所でキリつとしまるような態度をゆるんで、一人一人が身につける事が大切なではなからうかと

入部した頃の私は「運動部つて緊張した空気が持つてるものだな、この中なら大分鍛えられるのだろ」などと感心したり、期待したりしていたものだ。然し、日の経つに従ひ、部の内部を知つて行くにつれ、部の規律が目につき出して来た。ガツチリしてると思ひ込んでいたものが、肝腎要の所で、バラバラとくずれてしまひ、自分の殻の中にもぐり込んでしまふという具合に。利己的で、無責任で、根性がない。これではどう見ても曲線的な、軟派の輩、だと言つては名譽棄損になるだらうか?

部を育てようとする気持は自分を育てる事になり、又部の中に於いて自分を育てようとする事は部を育てる事にも通じると私は思う。部に対しては自分に対して、も、ひきしまるところでひきしまること、これが運動部の厳しさだと思ふのである。

私はこの部の中で、環境に対する期待のみでは取返は得られないという事を知つた。結果の善悪を恐れず何に凡ての行動に於いて自分自身が主とならなければ何とできない。いやつてみなければ分らない。当然の事だけれどもそれが今更になつて強く感じる。自説を強制する道理も何も無いけれどもその位の積極性が密に染まらなければ部は向上しないのではないかと思ふ。大体に於いて私達の部は環境に甘えず居れば何のいだらうか。どうにかどうにかやつていける間は何の不足も感じないし、反省も持たないし、従つて向上心も湧いて来ない。という感が強い。自分がやらなくても誰かがやつて呉れるだらう、自分一人居なくたつてどういふものなるらう……指導的地位にある上級生からかういふものでは、一本、筋の入つた馬術部となるのは時間の待つ以外に方法はないことなる。

一部の心ある人々に無制限な負担をかけておいて感じるところのないような無神経を、少しも早くたゞ直すべきだと思ふ。以上、口で言えかねて書いてみた。下級生でありながら出過ぎた事をとは思つたが、背かないではいられた。かた。お氣に障らばほつてもよし、但し、一度よく尋ねてからにしていただきたいと思ふ。いたらぬ身であるを願す、あえて申し述べた不遜な態度を深くお詫び致します。

新人の所感



馬術部に入部して一ヶ月、そして今日、一筆感想なるものを何か書いて来い、ということになりましたが、高松時代実際に見たこともなかった馬術ですが、時々テレビなどで見ていていいものだなあと想像もつかなかった。大学へ入つたらフエニシンドかまたは中学時代からやつて来たバスケケットボールをやりうと思つていたからだ。しかし入学式の日ある先輩から馬術部へ入らないかと勧誘されて見て元来動物は好きな方だつたから「馬に乗るのかこれは面白そうだ」と進んで入部した。そして今も入つたことに非常な満足感を覚えている。全くの未経験者である自分にとって先輩のご指導を感謝致します。これからも何も分らない新入生の一員にも一歩一歩のご

第一 廣田 勇 田 勇 田 勇

指導に役立たせればこれに代る輩はありませぬ。暮れゆく春の陣をおしみながら操縦の初更を辿えようとしている時、我々馬術部員は大いに馬を愛し可愛いがり、五頭の馬を中心にいづまでも部員の親和を計りそして習字馬術の名を天下に響かすよう、また部の時々発展することを新入部員として心から切望致します。

第一 廣田 勇 田 勇 田 勇

に追いまくれ、風流味の少ない人間が多い部会に住むと馬までもそれに似て来るのかと思うと少々気の毒に思う。

第一 芥 藤 良 也

入学試験も軽ろうじて通過し、何の因果か馬術部なるクラブに入つて一ヶ月、そして今日、一筆感想なるものを何か書いて来い、ということになりましたが、高松時代実際に見たこともなかった馬術ですが、時々テレビなどで見ていていいものだなあと想像もつかなかった。大学へ入つたらフエニシンドかまたは中学時代からやつて来たバスケケットボールをやりうと思つていたからだ。しかし入学式の日ある先輩から馬術部へ入らないかと勧誘されて見て元来動物は好きな方だつたから「馬に乗るのかこれは面白そうだ」と進んで入部した。そして今も入つたことに非常な満足感を覚えている。全くの未経験者である自分にとって先輩のご指導を感謝致します。これ

第一 木 村 義 行

私は、高等部の時にわずかばかり、乗つたことがありますが、乗れるという、段階まで来てませぬ。ですから、なにもかも新しく、気持ちの上で、練習、当番において、すなおな態度でやつていこうと思ひます。前の時よりも馬の頭数も多く、良い馬であると思ひます。私は、それ以上のことはわかりませぬ。私は、第二部にせきがあるにもかかわらず、第一部の馬術部に入れることが出来たことを大変うれしく思ひます。いまは、馬姿がそろつていませぬが、じよじよとそろえていきますから、そろつてまよしくお願ひいたします。出来れば第二学部より第一学部へ、へんにゆうするつもりであります。

「大学に入ったら先ず第一にクラブに入つてお互いの遊戯をはかり、有数の学生生活を送る」この言葉はどへ行つてもいわれることである。それはどの部に入つても同じことがいえるのであるが、他の「と違つて」の点は対象が「動物」であるということである。自分は馬に乗れるのは大学ならではと思つてこの部に入つた。先日先輩が、「たゞ馬に乗りたいなら部内の馬術クラブに入つたらよい。一度大学の馬術部に入つたら自分達の手で育て世話をしだい、そして乗る」ということをいわれたが自分は少し考えが甘かつたと思ふ。

しかし考をさすり、カイバを手えていると妙に可愛くなつてくるものである。皆が進んで当番に参加し一致協力して仕事に當つてゐるこの部。毎の部にはふられぬ責任感のとき。兄弟姉妹より仲のよい、打ちとけたたごまかなこの部、親切でやさしい先輩、こんな部に入れて是非にうれしく感じた。

馬術部へ入部してからこれ一ヶ月近くになるが僕はまだ馬に乗つたのは五、六回しかないで馬の性質等は全然わからない。しかし部の人達は皆親切なので安心した。ただ困つたことは五十数人もある部員の氏名を覚えられない事です。一度顔だけは覚えてもその人が何年生かもわからないので時々失敬する事があるのでなるべく早く名前を覚えたいと日夜努力している。

今までスポーツが好きなので、暇さえあれば色々なスポーツを楽しんで来ました。大学へ入つたら運動部に入つて大学生活を有意義に過ごす決心していました。

私が馬術部を選んだ理由は、どうせ運動部に入るなら全然やつたことのない部に入つて進歩がよいと思ひまして入つた訳です。運動部はなに部に入つ

ても大変苦しいものですが特に馬術部は馬がいますので尚一層苦しいと思ひます。私もそれを覚悟で入りましたが私も人間ですから自分勝手な事をするかも知れません。そんな時は遠慮なくくつて注意して下さい。私も馬術部で何か得ることが出来れば幸いです。皆さん、今後よろしくお願い致します。

僕々が入部してからの乗馬の感想と、いわれても、まだ日数が浅いので、本来の姿かどうか疑わしい点もあると思ふが、初感をごく簡単に述べてみよう。

まず馬術の欠かさないものは、馬であるから、その点から所感を述べてみよう。背鞍は潤滑が細かく人を咬む習性があるらしい。背鞍は、おとなしそくにみえる。背鞍は、樹皮が鋭敏らしく、感じられる。背鞍は、休がひきしまつていて、立派に見受けられる。背鞍は、見た感じであるが、足の運びが電く、足の運びがドフトタと遅ぶように見える。

次に馬術部そのものについてであるが、突直に述べると、馬房が狭すぎて、何かと不便を感じる。しが、しばしばある。その対策としては、裏の方へで

も少し板切れナドを懸出すことであらう。部員の方々はコンセンブ丁字に我々を指導して下さいので、必ずや上達への最近コースを、歩んでいくであらう。

馬術は、他のスポーツとは異つて、自分の姿格もある体質と力とはとを保持している大きな特徴を、自分の意志のとうりに動かす所に、能力を感じたし、又友人にもすゝめられて、始めは二部の馬術部に入部したので、二部の上級生に「剛屋は何にもすることはないのだし、又どうせ馬術をするからには、一部に入つた方がい」と云はれた。入部した時は二部の学生は、一部に入れないのだからと思つたのですが、入部出来ると聞いたし、又自分でも先輩の云う通りだと思つたので一部の馬術部へ入部した動機です。

翌朝六時二十分頃、学校へ来てみると、もう上級生の人達が、練習をしているのでいさゝか驚いた。自分も馬装をしてグラウンドに行つてみると、君が乗りなさいと云はれたので、乗つてみたのですが(初めて二部の練習で東京乗馬クラブで人が乗つてゐるのを見て、あれ位ならば自分でも出来る)その時は思

るものを相手に監視してゆくのがどんなに大変かを
知りました。馬は人間と違い何も言わないので、や
り馬に対する愛情がない限り出来ないことですが、
それだけやりがいもあると思います。朝早く明方のひ
んやりした空気を感しながらまだ寝しずまつている
町々を走り学校に行き、一些原山労働した後は一週間
分の勉強をすつかりすませた時の様に気持ちよい満
足感があります。何か活発なスポーツをやりたいと思
い学院の一週二独特なムードをかもしだしている馬
術部に入つたわけですが今迄通ってきたクラブと違
い非常にてきぱきしているし親同もあり統一がとれ
ているので初めてクラブらしいクラブに入つた様な
気分です。これからは更に秋に行事や試合もある
のでしようが大いに期待の門をふくらませていきす。

第一 部 子

T 大学に入つたらワンダーフォーゲル、青山に入
つたら馬術部と漠然と決めていた。そこでよくも考
えないでさつさと馬術部に入部してしまつて、あと
で少しばかり後悔したこともある。二日目のオリ
ンピーションで入部した馬術部の説明はまだかと期

待していたところ、やるような気配がない。そうし
ているうちに、ハイキング部の人達が壇上につた。
実に感じのいい人達であり又リーダー（聞くところ
によると後援さんの選挙演説をやつたとか）のうま
い話し方につかり引きつけられ一時まつたく馬術
部を諦念しようかと思つた。しかしある雨のしとし
とと降る日一人では気がひけるので友達と連れだつ
て浴室まできて入つてはみたものの、どうするの
かまつぱり分らないからそのことを聞きに行つた。小
屋の中に四五人学生服を着た人がたむろしていた。
実に不愛想で不親切な印象をうけていたところ一
人の男の人が赤いフロッキをばおつかぶりして雨の中
で歩いていて、五人の感じの悪い人達よりも、その
中の一人の人の行動が強く印象に残り、やはり馬術
部に入つたのは、これが始めてである。正式な運動部
に入つたのは、これが初めてであるし、まして馬には
かつて一面乗つたことがあるのみ（それで馬子がそ
不安の方が大部分はしんはほんのちよつびり。それ
にいてくれただけだ）だから今の私の気持は不
安の上まはしんはやさしいのだろうけど、一見非
常に得意。やはり入部した以上、女だからなどとい
う理由で、言ひふられたくないが、なにしろ何ん
にも、知らないのだから、親切に何んでも教えては

しいというのが私の願いだ。
土田先生の話をうかがつた所、馬術部にはい
る問題があるらしい。その中に、個人と部との問
題がある。が馬術部はあくまでも大学の部であり、
個人的にうまくなつてオリンピック（？）にも出た
いなどいのは、まつたく別問題であると思は
そういふ人は、それなりに自分でやればよいと思
皆が十分馬になれ、乗れ、親しくなつてこそ部と
しての意義があると思ふ。親睦を許すために馬と関
係なく、山等に行くのもよいであらう。せつかく入
部した以上途中で馬術したりしないで、部員全部と
仲よく、いつしようめんめいにやつて行きたいと思
う。

第二 部 友美子

私が青山学院女子短期大学に入學する以前期ち、
入試・発表・その他用事で、この学院の中に足を
踏み入れる度目についたのが馬術部の姿でした。
私の父が戦時中馬とは大分親しくしていた（？）四
係上、馬の話は良く我が家の憩いのひとときの話題
になつたものです。去年の暮頃に、家族五人で、
どこかの乗馬クラブに入り、毎日曜日を楽しんで過

うなどという話も出ました。勿論、昔賞成、弟など、
とびよつて存んでいました。でもこの熱い話は、
私の受験勉強のために、おぼれになつてしまいまし
た。ですから私は空内に馬術部があるという事を知
り、父の賛成も得て直ちに入部いたしました。これ
を知つた母から、こんな約束をさせられてしまいま
した。
「おねえちゃん、おねえちゃんが馬に乗れる様
になつたら、きつと僕にも教えてよ。」と。
今、私は馬術部の一員として、活動に参加はしてい
ますが、生業の消遣から参加しない事も度々です。
でもこれからは多に積極的になり、いろいろな会
にも参加しようと思つています。弟のためにも積極
的にならなくては……。
私は馬について、何も知りません。
まだ、さつちのうまい位な女ですから。そして部員
の方も、この人が誰だかさつぱり分かりません。ま
して馬の顔など……。
同じ当番つ先登の方から聞いたところによりますと、
馴れてくれば馬の顔もちゃんと区別出来るとか……。
早く私も部員の方にもつらん、馬の顔も覚えらる
様になりたいと思ひます。
先輩の皆さん!!

未熟な私ではございますが、努力はいたすつもりで居りますから、どうぞよろしくお願い致します。

短一 木 俣 や十子

馬術部に入ってわずかな日しかたつていないので全然どうやってよいかわかりません。上級生のしていることをたゞ傍観しているだけです。本当に申し分ございません。まだ馬にも愛着を感じておりませんし、馬房のいやな匂いにも慣れていません。今思うと、神益質なわたしには、この部は向かないつたようです。ただ馬に乗ることしか考えていなかったので、馬の世話や馬房の掃除など夢にも思っていませんでした。でもいつまでもきれいな仕事ばかりを好んでするのは、いけないことだと思いませんか、上級生に従って、できるだけやってみようと思えます。何でもいから言いつけたり、叱つたりして下さい。それに対して我慢できる人間になりたいと思えます。どうかよろしくお願いいたします。

短一 渡 辺 孝 子

まだ部に入りたてである。だから部に関して色々

馬を愛し、クラブを愛せる練習力してゆきたいと思つておられます。それに馬も一頭ふえた事ですし、新入生にもよく乗せて下さるからとても嬉しく思つておられます。最後になまい気な様ですけど先輩の男子の方、もう少し新入生に対してやさしい態度をとつていただけないでしょうか。

短一 穂 薊 民 子

○上級生の方皆さん大変責任感をお持ちになつてお当番もきちんと朝早くからいらつしやつて下さることに感心しました。よく見習いたいと思えます。○馬房の汚ないことにはさすがにあきれました。せめて着替える場所とそれを置いておくきれいな場所を設置してほしいものです。○それからお掃除用具をもう少しまともなものそろえてほしいと思えます。

○一年生として上級生の方が親切に指導して下さい。これは大変嬉しくはつとした気持ちです。

と語ることは出来ない。しかし上級生はだいたい親切らしい。(まだ部の人達全部と話したことがないので)練習となると手きびしいのは当然のことなので、その事は何も云うことはない。今の所は小さい時から望みであつた馬にのることがかなつたことで、少なからず満足している。しかし、ただ満足しているだけではせつなく入部した意味がない。一日もはややく、馬にのせてもらうのでなく、のつていく時になりたい。それにはまず練習であるが、午後の練習には授業がきつしり出られないのは残念である。夏過ぎに馬場が網屋に移ると聞いているので、練習がどうなるのか心配である。どちらにしても、部員として恥かしくない練習力していきたい。

短一 伊 藤 滋 子

今日始めて馬に乗つた位です。馬術部の感想と云われてもまだはつきり分かりません。でも第一に思つたよりも馬に乗るといふ事は、とつてもむずかしい事だと思ひました。最初、夏休みの遠乗りにあこがれ深しみにしてたけど、こんなに難かしいのはそれも不安です。でも出来る事なら落伍せず、時間があいている日には練習をやりに来、馬に慣れ

短一 野 口 苑 子

私がこの青学の入学試験のために上京し入試の二・三日前に学院を始めて訪ねてきた日はとても静かな日でした。友達と話しあひながらあちこち歩き回つていた時、バカバカとひずめの音がして女の人が馬に乗っている姿がみられました。私と友達とはしばらくその姿にみとれていました。その時とても馬に乗つてみたいなあと思ひはじめたのです。無事入学でき馬術部の人で同じ寮に入つている人からいろいろ馬術部のことについての話を聞き一層入部したいと思ひましたがでもなかなか踏みきれなかつたのですがとうとう思い切つて入部しました。馬房に出入し馬の顔などさすつてやつたりしてだんだん馬にも近づける様になりました。はじめて馬に乗り鞍に腰をおつけた時、ずいぶん高い所に自分はいんだなあと感じて馬に対する恐怖の思ひは全然なかつたのです。二、三度馬に乗り馬の世話のお手伝いをしてきたりするうちにだんだん部の生活が楽しくなつてきました。この楽しみがこれからも倍加して行き、ずつと部の生活を就けて行きたいと思ひます。そしてこの部の生活を通していろいろな点を学びたいと思ひます。

生来文を綴るといふ事は言手なですが何か、書く程にいわれたのでしよしよペンを取った次第です。まずそこで私が馬術部に入った経緯について少し述べてみようと思います。いつでしたか忘れましたがテレビで栗馬大会が放映された時に、青山学院の女子の方が何人か出場したのを見ました。そして何と品のあるスポーツなのだろうと感嘆すると同時に感ぜられてしまい、やってみようという欲求にかられました。

そして希望の大学入学校校友会に運動部として、馬術部があるのを知って胸が踊る様な気持ちで、家族の者達に相談したところ落馬でもしたら大変だからお父さんが良いと云々ゴウゴウたる反対にあつてしまいました。気の弱い私は、みんなの反対に圧倒されてしまいました。そこであきらめて他部に入ろうと思つて、やがて、校友会の間に上級生からいろいろお話を聞き又やりたいという気持ちが湧いて来ました。帰宅後自分の決心を母に言つたところ中途半端に終らず最後までやるといふ固い約束で、母の言葉をいただきました。天竺な私は路先壁からいろいろ教えを仰ぎピンピンやっていたく(遠慮しようかしら?)と

共に、落後者にならぬ極努力に努力を重ね(??)ようとう心にちかつております。そして馬術生活の思い出を青春時代の一言に飾りたい。

私が馬に感心を持ちはじめたのは多分下町に住んでいた幼稚園の頃だつたと思う。丁度終戦の頃で自動車などという文明の利器は今般街中を走っては昏らさず、私選手供にとつて好都合な遊び場だつた舗装道路を日に何度も荷馬車が往來していた。それで子供心に重い荷物を引かなければならぬ馬に、大いに同情したものだ。少し大きくなると、映画やおとぎ話に出てくる馬にაცოგაგა、馬を飼つてほしいとせがんでしかられたこともあつた。実際に馬にふれたことはなかつたけれど小さい時からそんな風だつたので、青山に馬術部があるのを知つた時、すぐ入部しようと決心したことは言うまでもない。タラダに入つてから一ヶ月、目新しいことばかりで、唯夢中のうちにすぎってしまった。入部してみると幼い頃からいっていた馬に対するただ単純な幻想は消え、かつ現実的な、馬との生活とか結びつきについて少しずつ理解するようになってきた。こゝろは言つてもまだ入部したばかりでわからないこと

だらけですから、上級生の万々、どうぞ厳しい助言をお与え下さい。残る二年間、入部した以上頑張つてゆきたいと思つています。

貨車にゆられて 新馬青光上京の記



朝岡 岩崎 修

四月二十三日夕方六時ごろだつたと思ふか横浜栗馬クラブから新馬の観込みがきまつたので今夜の十一時の急行で一ノ関に行つてくれというまで足もたら鳥がたつ様な話、そこで、まに合せて小生と山田が行く事にきまつた。あまり急なので多少の不安はあつたが岡田先生が一緒と聞いて安心した。上野原では相変らず混んでいたが運も手伝つて三人うまい所にすわられた。我々は汽車が出ると間もなく、待つている馬について色々と想像し、語り合つた。話す内にきつといふ馬だといふ確しんが持てた。話のつきどころ、ひよつ

と通路を見とすぐ近くにいつしうけんめい化粧をしているグラマー美人が目についた。そのまゝじつとみてると向うでも気がついたのかくすくすといふ出た。きつとれていたのである。さらに見ると今度は怒つた様な顔をした。その内化粧も終り、自分の顔に満足したらしく今度は又すましていた。そうしてくしやくしやくの週間誌を読み始めたので、小生もタバコに火をつけた。

石岡を過ぎたころ「岩崎一パイイけ」と岡田先生のお得意が出た。これには小生も弱く出されたトリスを飲みほした。車内は人息れで熱くウイスキーが体に回りいつかねむつてしまった。

一ノ関についたのは二十六日の八時五〇分。原は極祭りややらでめかしていた。そいえば草薙から今はさかりと咲く花を見たが、東京に比べると、この辺の花映きは二十日は東京よりおそい。

とんだ所で花見が出来たわけだ。駅からまづすぐ一ノ関の遊園組合へ、嗜れてはいたがはた祭く、山はまだ雪をかぶつていた。組合ではお世話になつた松本さんが居られ、形取りのあいさつをすませると「まんず、おかけなんし」といふ事で、馬のつみこみまでみこしをすすめることにした。こゝで東北弁のくさをちよつと、松本さんの電話での命節をたどつて記してみよう。「もしもし組合の松本でかん

す」「〇さんおいでやんしたら、ごめんどうでも、呼んでくなんし」「あ、〇さんですか」オリンビツツ券金まんず、おねけいしやす」……ハイ……」「どんぞ」とまあこういう具合、ユーモラスだが、どこか、ねばつたい感じのする言葉だ。山田は聞きとるのに苦勞していた様だ。

午後二時すぎ青光が道合の前の広場に現われた。うみてもきれいな言葉だが、仲々たくましくそんな馬で学校馬には最適だという印象を与えた。やがて山田の馬もやつて来たので貨車への積込みが行われた。二頭ともおとなしく助かった。我々は貨車の半分、藪のベントを作り寝ぶくろをそろえた。お世話になつた松本さんと阿部先生に別れをつけ六時すぎ貨車は一ノ関をたつた。いよいよ上馬との旅である。阿部先生から色々注意を聞いたがやはり始めての事で心配である。馬はおとなしいといつても、貨車のゆれるたびに右往左往し、ためいきをつく。それに日も暮れて車内は懐中電燈のあたりだけである。換気の為に開けてある所から夜は信守や阿の閉りが入り馬は驚く。そこでその場所をむしろを下げて、ふせいだ。大分進もう。車は各駅停車だが大きい駅はさらに二時間は停車をくわえず大半田である。夜中ではあるが、水はさらすわけ

に行かず、バケツに一ぱい飲んでおいた。貨車の振動で水がこぼれるので、ワラを水に浮かせてこれを防いだ。仙台あたりまで来ると馬も貨車になれて来たので我々も寝ぶくろに入つて休んだ。白石で一時間停車、明方六時半にようやくして福島についた。こゝでは二時間半の停車、馬は何事も無い。馬に飼をやるも今度、我々の飯だ。我々の貨車の前後に芝漕行きの馬や牛それに小豚が積まれていた。すぐ隣りのフタの車のうるさい事、さらに臭気をまじえなんとも云えない。彼等は年中貨車運びは慣れているらしく、色々と我々のめんどろを見てくれた。朝食もその人達のいきつけの大衆食堂で食べた。彼等は朝から酒をやつていた。「間から酒ですか」と云うと「我々は朝の方がいよんたよ、夜はねむくて気がゆるむのでね」と話してくれた。貨車は停車中、いつも同じ場所にいるとは限らない。貨車をうっかり離れると、とんでもない所へつれていかれて、見失つてしまふ。しかし彼等と一緒にならば安心の上ない。山田の馬が水を飲まないのでも痛くもおこされてはと水にフスマをうかして、ようやくのました。青光の方はと云えばのべつ飲み又食べている。

福島の駅は普通の入道で二はい、いゝ機会とはかりに、車体に青山学院馬宿部と大きく書き、アビールさせたつもりだ。

白河についた。午後三時半から二時間停車、昔開所であつた所、ソバがうまいと聞いて食へに行つた。手うらふとくして仲々うまかつた。さらに時間があつたので山田とバチンコをやつた。白河からは、貨車も比較的スピードアップで進んだ。やつこの事で十時すぎ、大宮へついた。これで「安心」といふが、こゝで七時間間の停車である。雨も降り出し、夜中でもあるし、さらにわるい事には、貨車の入れかえて、間断なく、まつつけられ、このソノソノは馬でなくとも、まいつてしまつた。こうして「二十八年前九時半、渋谷に無事着く事が出来た。我々は寝たのか、どうか、とにかく大役をばたして、その方の喜びの方が大であつた。青光も山田の馬も、きつと昔の期待通りの馬に成長してやってくれる事と思ふ。どうか皆でかわいがつてやつてや

春季合宿日記

商三 岡 良 介

概略き習草乱れ始め乗馬にも勉強にもシーズンたけなわである。春休みになつて帰郷していた部員も全て合めて四月九日の四大学草を皮切りに幕を開く今年度本学の行事に越えとめの上上符を行う合宿ではある。場所は横浜は山の上、横浜乗馬クラブである。

(第一日)四月一日(金)晴

夜である。ラジオを聞きながら横になる。となりに一才許なものならわりかしロマンチックに見える所である。雑談をしていて忽然と窓の夢見に浸れそう、渋谷には、青山にはこんなところはない。ラジオはダンスタイムの音楽をやつてゐる。夢は早や大空につて、決してくだらぬ想像ではあり得ない様な気がする。なにか遠いつきさす線なつめたい願であつた。しかし

を阿部先生の調教によって序々に面目を造作して来た。星ころ井田、藤田の両騎がわざわざ見物に来てくれた。昨日は木田騎がみんなの大好きな馬を行って。きつが青学の教養である。相手の気持がよくわかる。やつと言葉が入ってきた。二階の気持が通じたらしい。今日で細内と阿左楽の二人が試合で帰京したがその穴埋めに平中主将が入り二階は堤、山田、自分の四人。下は岩崎副将、山口、金子、高倉、船木の面々。広い広い宿舎はまだ四、五階の収容能力がある。夜になる。トランプをする。昨日は一言が敗けて落涙になったが今日も同じ。君が一四〇円とられた。人生はこれギャンブルである。かけひきの世の中である。我が乗馬はスマート。どうやらばててきたかはつきりガタがきた感じがした。午後のアサギリはこのクラブでハタヨウ、ヘルヒメ等と共に大いに稼いでいる馬、まだあまり調教されていない模様。練習後クラブに馬見の時にお世話になったローマ・オリンピック選手の荒木雄豪氏が見え、色々話をされた。

(第六日) 四月六日(水) 晴

横浜は山の上、はるかに山岳が見渡せる。切り崩した馬場の周囲には総合運動場を始めサッカー場、バレーコート、テニスコート等神奈川県内の誇る種々の競技場がある。乗馬クラブには阿部先生の他今年度本学短

大卒の山本騎、日藤大卒の和田氏、法政二高の学生君、他に先輩の平木さんをも交え本学には大変なじみのある顔である。本学園の会員も十名内外も入会している。現在の馬四十二頭の中には東京ファンお馴染みの龍天号やムテキ号など、バラエティーに富んでいる。自分も今日、平中さんと共に食事の当番である。朝はいつものパン、牛乳、バターにもやしとキャベツとニンジン、の油いため、デザートはリンゴである。そして相変らず昼食は抜き。最後の練習を終えた夕食はあらかじめマラソンの代りに横浜迄の三十分近くを徒歩で買っておいたすきやきの献立、阿部先生も呼び最後の晚餐である。集団生活の楽しさも今夜でお別れ、せつかく宿舎の固いマントにもなれ、かの栄義超大の人とも米をたいてもらえる仲にまでなったのに至極残念である。他校との対抗試合に最初のうちはまだいゝが出場回数が多くなると増々それを痛感する。二年生もうまくなつた。馬術は馬場からと云うが今回の合宿では障子は皆無。全て登上げの部班でしほりあげた。まだまだ足りない、毎日毎日の基重な練習こそ我が青山学院馬術部をより高い地位にすえつづけるものとなるう。

馬事講習騎乗日誌

経三 細内 宏

馬事講習騎乗日誌

四月六日(水)

一、〇〇〜二、三〇 フキフォード

今日は始めてなので鞍をはいて並足を主にやつた。だきが太く鞍もかたいし、乗りにくい、ほんどろは高い。別に拍車は嫌われない。

七日(水)

九、三〇〜一、三〇 フキフォード

今日はしぼられた鞍あげで四〇分位？落ちそうになる事数度。学院の馬と違つて柔順であるけれどもなにしろこいつはほんどろが高い。こんなにあふみあげが長く感じた事はない。一時間以上やつたような気がした。

一、三〇〜四、〇〇 光跡

この馬はほとんど出て行つて困る。距離がとれないほどだ。それに拍車を嫌う馬寄せも悪い。た

だほんどろは割合柔だ。あふみあげ四〇分位？

八日(金)

一〇、三〇〜一、三〇 フキフォード

今日も落馬しそうになる事数度。もうこの馬に乗りたくない。案外扶助には柔順だがすこし硬いような気がした。

二、三〇〜四、〇〇 光跡

唯出て行くだけで扶助もなにも効かない様だ。調教は余りしてない様だ。腕が痛くなつた。(余り引つぱりきりなので)

九日(土) 四大学の為 休み

十日(日)

一、三〇〜三、四〇 キングカルベ

いい馬だ。ほんどろは軟らかいし扶助にも柔順だが歩方が少しこつこつしている様だ。それに今日は始めて障害練習をやつた。この馬は障害の前(見せると、ほとんど出て行く。なんにもしなくとも大丈夫だ。油断すると左に逃げる。腕が痛くなつた。はみをはづしてやると落ちつく。

十一日(月) 馬事公苑休日の為休み

十二日(火) パレス見学

一〇、三〇〜一、三〇 三里

本当にいい馬だ。やわらか過ぎる程だ。扶助にも敏感で少し拍車を強く入れると既足をする。まだ